

審査の結果の要旨

氏名 小谷野 結衣子

本研究は、療養病床病院の高齢者のスキンテア発生と再発の予防策を提案するために、発生予防ではハイリスク患者を同定する皮膚特性を明らかにすること、再発予防においては質的研究手法を用いて高齢者のスキンテアの形態的特徴と起因外力を概念化し、形態的特徴から起因外力を推定する対応表の考案を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 療養病床病院（500床）1施設に入院中の65歳以上高齢者149名を対象に前向きコホート研究を行った結果（追跡期間中央値101日）、21名に52例のテアが発生した（発生率1.13/1000 per-day）。スキンテアの最発生部位は前腕外側で、起因外力が不明な症例は4割を占めた。スキンテア発生と有意に関連していた皮膚特性は20MHz高周波画像装置で測定した真皮の厚みであった（カットオフ値：0.8mm）。
2. 療養病床病院（500床）1施設に入院中の65歳以上高齢者に発生したスキンテア（20例）の形態的特徴を分析した結果、1) 部位（骨突出部・長骨上）、2) 形（ライン・三日月）、3) 皮弁（皮弁なし、皮弁の欠損なし、部分欠損、全欠損）、4) 紫斑（なし・局在性・装着物周囲・散在性）、5) サイズ（小さい・大きい）が抽出され、更に三日月の円弧は起因外力に関連する3つのサブサブカテゴリー（円弧の向き・円弧の左右対称性・円弧の深さ）が抽出された。
3. 療養病床病院（500床）1施設に入院中の65歳以上高齢者の腕に発生したスキンテア（23例）の起因外力に関するインタビューを分析した結果、1) 起因者（患者・介助者・装着物）、2) 外力のタイプ（ぶつける・擦る・拭く・引っ掻く・爪が食い込む・引っ張る）が抽出された。
4. 外力カテゴリー「起因者」「外力のタイプ」を識別する際に特化した形態的特徴として4つ（紫斑・形・円弧の深さ・サイズ）が対応表に含まれた。部位、フラップ、円弧の左右対称性、円弧頂点の向きを示す形態的特徴は起因外力と関連が得られず除外した。

以上、本論文はスキンテアのハイリスク患者を同定する皮膚特性と、詳細な質的データを用いてスキンテアの形態的特徴から起因外力を推定する対応表を開発した。本研究はこれまで臨床データの乏しかったスキンテア発生予防と再発予防に重要な貢献を成すと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。